

新穂高～ジャンダルム飛騨尾根～奥穂～北穂～滝谷クラック尾根～

涸沢岳西尾根～新穂高 12/29～1/2

後藤皓二郎（山の会カラクルン）

新穂高～ジャンダルム飛騨尾根～奥穂～北穂～滝谷クラック尾根～涸沢岳西尾根～新穂高に行ってきました。メンバーは京都の宮川さん、モンレーの田村さん、丹波山岳会の吉廣君の四人で行ってきました。

今回の計画はラッセル、歩きが多いのでトレーニングはボッカと荷物を背負ってのアイゼンワークを11月頃から取り組んだ。正月の滝谷登攀は小西政継の本を読み漁ってずっと憧れていた。山の計画は宮川さんの誘いから始まった。宮川さんは飛騨尾根に2回トライしているが二回とも敗退に終わっている。2015の年末槍ヶ岳西稜登攀の際「飛騨尾根行かない？」の誘惑。飛騨尾根は白出沢～ジャンダルムに突き上げるカッコいい尾根である。僕は滝谷に行きたかったのだが、涸沢岳西尾根からアプローチすることに少し物足りなさを感じていた。メンバーも増え、皆もその気になってきて、宮川さんと僕の計画が混ざり合い、ジャンダルム飛騨尾根～滝谷を登攀するボリュームのある計画になった。ホンマにいけんのかいな…と内心想っていたが、とりあえずトレーニングに励んだ。宮川さんは膝の調子悪く、当日まで練習をできなかったのだが、僕はみんなにプレッシャーをかけ、田村さん、吉廣君はしっかりとトレーニングしていてチームの士気も上がっているように感じた。計画も練れている。あとは好天を祈るのみ。

12/29 新穂高で仮眠後、5:00 発。雪は少ない。暗闇の中林道を歩く。飛騨尾根のラッセル、どんなだろう…7:00 白出沢出合。なんと、無いと思っていた、トレースがある。宮川さんの話では今までのトライではえげつないラッセルに苦勞をさせられたそうだが、今回は雪も少なく歩きやすい。トレースを辿っていくと単独の方に出会い、ここで引き返すそう。トレース終了。9:00 天狗沢出合(本当は過ぎていたのだが…)。白出大滝らしきものも確認でき、地図を取り出しそのまま結構急な尾根を登ったのだが、行けども行けども乗りたいD尾根に乗れない…1:30 くらい進んで気づく…間違えた。懸垂で降りようかという話になったが、雪質よく時間も思ったより早いのでロープが引っかかったり、ここで何かトラブルがあってはいけないと思い、単独の方に出会った地点まで半ば強引に引き戻すことにした。今回のメンバーの中、普通なら経験のある宮川さんがリーダーになるのが妥当だが、膝の調子も悪く計画にあまり加わっていなかったのが誰がリーダーなのか少しブラブラしたような感じだった。自分は計画もしたしトレーニングもしっかりやった。宮川さんにはアドバイスを貰うが、自分がリーダーとしてチームを引っ張ると、この時決心した。12:00 頃。2:00 のロスだが、みんながみんな間違いを謝りあった。冬山経験の一番ない田村さんが間違ってるのちやうの…と一番思っていたのが可笑しかった。

結局単独の方のトレースが間違っていたようだ(信じ切った自分たちが悪い)。やっとこさ目当てのD尾根に乗ることができた。黙々と歩くが、宮川さんのスピードが落ちている。森林限界 2600m くらいまで進めようと思ってはいたのだが、天気も荒れてきて明日の午前も天気が悪くなりそうなので、14:30 頃だっただろうか…皆の様子も見て 2300m で幕営することにした。整地してテントに潜り込む。好天だった空にも雪が舞い風が吹いていた。温かい飲み物に落ち着くがアライの3,4人テントはギュウギュウ狭い。明日

の天気午前悪そうなので、明日はD尾根森林限界までテントを進めることになった。寝ている時は樹林帯にも関わらず強い風がテントをバタつかせていて暗闇の中明日からの計画と天気を頭の中で重ね合わせていた。

12/30 もし天気が回復したら行っちゃおう！と、3:00 起床のはずがぐっすり眠り4:30 起床(反省)積雪 20cm くらい。天気も不安だし、今から飛騨尾根は攻めれないので、もう一度シュラフに入り込み8:00 頃までダラダラ。9:30 頃出発。天気も回復、快晴の中を森林限界までテントを上げる。爽快だ。1時間強で2600m 付近。飛騨尾根に乗る位置を見てみるがはっきりとしない。後藤&吉廣ペアでルートファインディング、トレースをつけに行くことにした。今のうちにトレースをつけておけば明日暗闇の中を出発できる。その間、田村&宮川ペアにはテントの設営をしてもらった。雪は締まっていてとても歩きやすい。(宮川さんの前回の飛騨尾根ではスコップラッセルだったらしい)少し上がると、ルートも明瞭になり尾根に乗る位置が確認できた。1:30 くらいで飛騨尾根の乗り口。3級くらいの岩場があったがノーザイルで上がった。下から見た時ジャンダルムだと思っていた岩はジャンではなく手前のピナクルT2 だった…思ったよりも結構あるなあ…というのが印象。飛騨尾根に乗ると強風でまつ毛が凍る。これ以上進んでも意味もない。クライムダウンが怖いので支点構築して懸垂下降。任務完了。ルートもわかり満足で帰ると立派なテント場ができていて、水も作ってくれていた。感謝。帰幕 15:00。撮ってきた写真とルート図を照らし合わせたり、明日の計画を話し合った。明日の行動は長いので少し多めに食べて寝る。結果的に準備万端で飛騨尾根アタックできる。

12/31 2:30 起床しゴソゴソと準備。早く進めたら北穂まで行けるのでは…今日からの計画と天気、色んなケースが頭の中をグルグル駆け巡っていた。トレースをつけていたので昨日懸垂した地点に早く着いたのでヘッドランプのまま登攀開始。荷物を背負っては登りがキツイと思ったので昨日ロープをフィックスしておいた。各自登高器である。尾根に上がってからはノーザイルで少し登る。何百メートルか登ってからフェースに突き当たりロープを結ぶことにした。7:00 頃か。徐々に明るくなってくる。トップは吉廣。セカンドサード、宮川さん田村さん。後藤フォースのオーダー。少し多めに荷を担いだが練習の時はもっと重くしていたので軽く感じた。時間も早いし全てが順調に進んでいた…のだが、T2 直下で吉廣痛恨のルートファインディングミス。待つ…待つ…ひたすら待つ。ザイルのライン取りも悪くセカンド&サードも苦労している。結局僕は2時間以上待つことになった。天気がいいとはいえ、3000m でガスの中、二時間待ちの寒さは堪える。宮川さん、後藤吠えまくり。田村さんは優しいのでどこ吹く風。でもまだ時間もあるし天気も悪くない。(しゃーないな)4級くらいなのだが担いでの支点なしのトラバースは怖かった。一か所、一か八かで飛んだ場所があった…ビレイ点に到着したら、宮川さんと二人で吉廣君にお説教タイム。このピッチだけで3時間はかかっていた…今日中には北穂は行けないな…もう1ピッチ簡単な場所を進み、ロープを解いて簡単な雪壁を登ってジャンダルムへ。遥か彼方に見えていたジャンの頂上に着いたのは12:00 頃。奥穂を望むと距離はまだまだある。写真を撮り出発。懸垂支点を探しているとクライムダウンできる場所を発見。何とか主稜線に降りたのだが、少々危険でみんなからはブーイング。おとなしく懸垂をしておけばよかったと反省。主稜線の景色、ナイフリッジの美しさはとてつもないものだった。ここは日本か…どこにいるのかわからなくなるくらい景色は美しくて幸せな時間を過ごす。ナイフリッジ部分だけコンテをして特に問題はなかった。ロバの耳で懸垂二回。懸垂の準備にもたついていたので自分が降りることにした。引っかけりもなく順調に降りれたのだがビナ1枚で懸垂していた三人を見て、宮

川さんの怒号が飛んだ。確かに軽率だったと思う。バックアップ位取ろうと思っていたのが面倒でしなかった。風雪にさらされているビナはいつ破断するとも限らない。ありがたく受け止めて考え直そうと思った。再びの馬の背ナイフリッジ美しく上り下りもそれほどない。奥穂頂上 15:00。360℃の景色を堪能。飛騨尾根を登り辿ってきたジャンダールムへ続く稜線を見ると充実感。笑顔で握手をしてから写真をたっくさん撮った。ここから穂高岳山荘までは一度吹雪の中彷徨った経験がある。思い出しながら下った。小屋着 16:00。先客はシュラフにくるまっいて小屋の中は太陽が当たりほんのりと暖かく、長時間風にさらされてきたので天国に感じた。今日は小屋の中で眠れるので広々。各々荷物を散乱させていた。田村さんがなかなか到着しない。外に行くとヨロヨロと降りている。完全にリミッターを超えているようだった。今日は朝から緊張の続く場面が多かったから精神的に疲労しているのだと思った。小屋から声をかけ田村さんを迎える。本当に頑張ったと思う。こんな所まで愚痴もこぼさず歩き通した。フラフラと小屋に入りバタンキュー。夕日がとても綺麗な日だった。さあここまでは計画通り。滝谷を残すのみ。

1/1 4:00 起床。早く北穂の小屋に荷物を置いて滝谷に行きたいのだが天気悪し。6:00 暗闇のホワイトアウトの中出発し、とりあえず登れば涸沢岳に着く。頂上はどこかわからないが涸沢岳西尾根分岐にたどり着いた。一度通っているのでガスっていてもわかるだろうと思ってはいたのだが視界が無いとやはり苦労した。涸沢岳から少し下っただけで方向が分からなくなってしまった。コンパスを取り出し考え、悩む。縦走路の鎖が途切れ、視界無しは心を不安にさせ、久しぶりに使うシルバコンパスも使い方を間違えていた。もう一度合わせるとコルの方向を指した。以前よりかは平静を保っているようだった。まつ毛が凍って前が見にくい。ルートも確認しながらなのでスピードも遅い。メンバーのスピードも落ちている。悪天の行動は想像以上に疲労するよう。宮川さんは経験があるので居てくれて心強い。途中荷物の配分を変えてスピードアップを図るが、もう少し早くしておけばよかったと今思う。二時間で着くよ…と皆に言っていたのでブーイングもので結局 3:30 くらいかかった…僕はみんなには言わなかったが、しんどかったし、とても不安だったが皆不安になるので口にしないようにした。よくわからないが北穂頂上直下で体が燃えるように熱くなる。体を冷やさないように自分の体が何かを行っていたのだろうか…

9:30 北穂小屋着。ドタバタと小屋に突入。一人だけ小屋の中に居た。少しの間ホッとして、むさぼるように行動食を食べる。こんなところで苦労するとは新年早々冒険的な幕開け。緊張する箇所もたくさんあったので田村さんはやはり疲労困憊。アタックできる時間はまだある。田村さんは小屋で休むことになり、結局クラック尾根には三人で行くことになった。ついに憧れだった滝谷アタックの時。心の中はドキドキで一杯。寒さは？壁の状態は？取りつきは分かるかな？明るいうちに帰れるかな？10:00 過ぎザックを一つにして出発。天気は回復してきている。慎重にB沢コルまで降りる。B沢のコルは分かった。ホッ。下りの雪質良好。ホッ。夏に三度来ているが何度も壁を見て見逃さないようにし、取りつきも分かった。とてもホッとした。B沢からロープを出して取りつきへ行き、ビレイ点補強し二人を迎える。

さすが滝谷、風が強い。壁はエビのしっぽがびっしりで残置ハーケンはほとんど見えない。始めは宮川さんリード。クラックの中は凍りつきキャメロットをセットできない。プロテクションセットがなかなかできず苦労しているがトライカムをうまく使っていた。ほとんどのピッチが三級なのだがランナウト多く、それ以上に難しく感じる。ビレイを

しながら周りを見ると、ガスも晴れてきて、何というロケーション！ドでかい左右の壁に大興奮。メガネのコル、カッコいい。どこにいるのかわからなくなるくらい美しかった。なかなか来ることのできない滝谷、リードも交代しながら進みそれぞれがそれぞれの滝谷を楽しんでいるようだった。最終ピッチでは夕日が壁を照らす。真っ赤になる一尾根は息をのむような美しさだった。アックスビレイしている吉廣君のもとに着き。小屋までは30mくらいで終わった。胸の中をこみ上げるものがあり、恥ずかしながら少しウルツとしてしまう。三人で抱き合った。飛騨尾根から滝谷を登り通したとてつもない充実感とメンバーとの時間の共有感、山は最高だ。遠く槍ヶ岳まで見渡せ、皆なかなか小屋に入らず、浸っていると田村さんが小屋から顔を出す。水をたくさん作ってくれていて登れたことを一緒に喜んでくれた。

うれしくてうれしくて満足感でいっぱい夕食、予備日の分の食料も多めに食べお腹も一杯。来てよかった…と心の中、ガスの火を見ながらなかなか寝付けず遅くまで話をした。

1/2 この日も天気が良い。4:30 起床。ゆっくり準備をした。別に慌てることはない。今日は視界も見えているので涸沢岳まで問題なく到着する。この日の景色もホント綺麗で、写真をたくさん撮りながら下った。宮川さんの膝が爆発するか心配だったが、ゆっくり下り新穂 16:00 頃着。予定通りの日程で予備日を使わず年末年始の山が終わった。今回の成功は好天のおかげと、メンバーが四人で軽量化できたこと、雪が少なかったことだと思う。メンバーの役割もそれぞれにありチームワークも良かったと思うが、ボツカ訓練もしっかりとして、経験が余りないのに最後まで頑張り通した田村さんに特に感謝の気持ちがある。

山の景色が美しく充実した山行だった。